



収穫したオリーブの実

江田島オリーブへの道のり

関農林水産課 ☎(40)2770

現在、市の新たな特産品として取り組んでいるオリーブ栽培。市がどのようにオリーブの特産化を進めようとしているのか、その概要をお知らせします。

▼江田島オリーブの経緯

市では、平成8年度から施工した八王寺農道の有効活用と、平成19年度に企業から無償譲与を受けた大柿町深江釣附地区の土地(約114ヘクタール)の有効活用を課題としていました。そんな中、企業からオリーブ栽培の提案を受け、気象条件・栽培の簡易性や農産物の6次化による将来性などを検討した結果、耕作放棄地解消策としてオリーブ栽培を進めていくことにしました。

▼オリーブ園地の造成事業

無償譲与された大柿町深江釣附地区に、約7ヘクタール(造成規模約13ヘクタール)の農地を造成する予定です。造成事業費は約2億5000万円、この費用には国の補助が

50%(約1億2500万円)、県の補助が15%(約3750万円)あり、市の負担は35%(約8750万円)です。市が負担する8750万円のうち、オリーブの植栽面積部分は、

参加企業から土地使用料として、平成30年以後に徴収する計画です。造成後、江田島オリーブ(株)など地元企業3社がオリーブ栽培とオリーブ加工品を製造。県内や県外の主要都市などで販売し、江田島オリーブのブランド化を目指します。

▼オリーブの普及計画

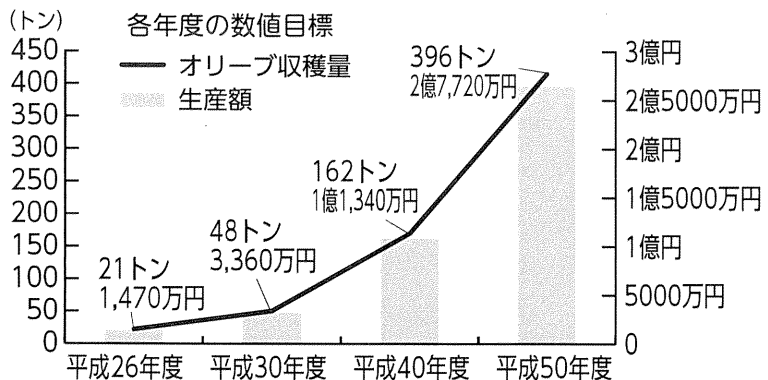
オリーブの普及を進めるため、平成22年度からオリーブ苗木の助成配布を実施。平成23年度末までに、約3500本の苗木を市民の皆さんに配布しました。今後も一定の目標値に達するまで、苗木の助成配布を計

▼今後のオリーブ振興計画

画し、必要があれば各種団体への出前講座を行うことにしています。また、毎年3回程度オリーブに関する講習会(防除や剪定、植樹)を行います。

オリーブ栽培は平成26年度完成予定の農地造成から本格化し、集荷業務をJ A呉が、加工を江田島オリーブ(株)が担う計画です。加工品として塩漬けやオリーブオイルなどを製造し、「江田島オリーブ」として県内外に販売予定です。

具体的な数値として、平成30年には栽培面積27ヘクタール、収穫量48トン、生産額3360万円を、平成40年には栽培面積46ヘクタール、収穫量162トン、生産額1億1340万円を目標としています。



農地造成中の釣附地区 (大柿町深江)

